

「ウイング・ウイング祭」 展示発表

11月4日・5日 高岡ウイング・ウイングにて「富山県の名水マップ」や機関紙・自遊塾の名水探訪アルバム等を展示し、当会の活動を紹介しました。



【本の紹介】

「人生百年の教養」

「知恵の輪・サークル」中嶋 昭三

新型コロナにより新しい生き方が求められています。皆様の参考になる本の紹介です。

亀山 郁夫著、講談社現代新書、2022年4月20日第1刷発行、1,000円（税別）

目次	序章 人は信念とともに若く
	第一章 「教養」すこやかな喜怒哀楽
	第二章 少年時代「私」という書物1
	第三章 青春時代「私」という書物2
	第四章 「私」は外国語が苦手
	第五章 モンタージュ的思考
	第六章 実践の技法
	第七章 俯瞰的思考
	第八章 老いの作法
	終章 大厄祭時代に贈る言葉
	あとがき



【3つのポイント】

- ・「人生百年の教養」について考える本である。
- ・われわれ（高齢者）世代では第八章がとても参考になります
- ・「趣味としての読書」から「人生を切り拓くための読書」へ変えよう。

【第八章から】

1. 読書とは他者を受け入れること：＜他人の考えを知り参考にできること＞
2. エネルギー源としての「忘却」＜忘れることで、新たな知識が入ります＞
3. 老美、70歳で見えてくるもの＜老いで弱者となった人間に活力を与えてくれるのが、読書であり教養です＞
4. 百歳以前一究極のコミュニティ＜希望がある限り若く、失望とともに朽ち老いる＞
5. 1分を百年に変える＜困難にぶつかったときは、「これで死ぬわけじゃない」と達観すること＞
6. 教養人の使命＜すこやかな喜怒哀楽をもって現実に接し、命の大切さを伝えていくこと＞

名水漫歩②①

うりわりしょうず

瓜裂清水 砺波市庄川町金屋

伝説によると「六百数十年前に井波瑞泉寺の開祖、^{しやくによ}綽如上人が庄川で休憩された折、上人の乗った馬がひずめで地面を踏み抜くと突然陥没してそこから清水が湧き出した。さっそく里人が献上した瓜をその水で冷やしたところ、あまりの冷たさに瓜が裂けたことから、綽如上人が＜瓜裂清水＞と名付けた」といわれている。

10年ほど前から湧水量が年々減り「霊水」の枯渇の危機にあったが、令和2年4月に住民の手で原因を突き止めその対策をして、昔の水量を復活させた。

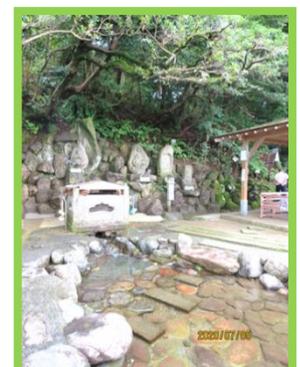
この水の水質は、硬度36・pH6.6であり、昭和の全国名水百選に選定されている。また「とやまの名水」である。（岡岸喜義 記）



10年ほど前に訪れ清掃活動を行った時は、水量が減っていた。



新たな湧水口発見により 令和2年4月に水量を復活させ、整備された。



ホームページのアドレス

<http://www.toyama-meisui.jp/ml.html>

又は「富山の名水を守る会」で検索

（担当：中嶋昭三）

NPO法人 富山の名水を守る会 事務局
〒939-0305
富山県射水市鷺塚142番地24
Tel・Fax (0766) 55-0056